

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第6号（通算第12号）
平成26年10月1日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



【小学校教員から学ぶ研修】(9/19)
写真は模擬授業の様子！「4年算数」
①小学校教員役は小杉指導主事
②③自分の考えを発表
④発表内容を板書で整理
⑤模擬授業後の協議会
※標記講座の研修内容については、
次号以降で紹介する予定です。

単元をつくる

小中一貫教育推進課指導主事 渡邊 芳久

単元づくりの第一歩は学習指導要領（教科書や指導書ではなく）を読むことです。「分からなかったら百回読んでみれば分かる」という指導をしていただいたこともあり、単元づくりのために、真剣になって百回くらい読み込んだことがあります。

例えば・・・よい単元ができたかどうかは別にして・・・

小学校学習指導要領解説社会科の第3学年及び第4学年の内容に「地域の人々の生活にとって必要な（略）廃棄物の処理について（略）調べ、これらの対策や事業は（略）役立っていることを考えるようにする。」というのがあります。いわゆる「ごみ単元」についての内容です。

普通、数秒で読める内容ですが、私はまず、「廃棄」で立ち止まりました。いくつかの辞書では「不要な物として捨てること」とありました。それなら「捨てるって？」と調べると「不用のものとして手元から放す」とあります。一応「廃棄物」も調べると「占有者にとって不要とみなされ、処理する目的で排出または廃棄した物、あるいは保管されている物」とありました。「保管も廃棄？なるほどね」と思い、「処理」にも引っかかりました。そして「処理＝物事をさばいて始末をつけること」であることが分ると、ゴミ処理に関わる様々な社会的事象とともに、我が家の中の事象も思い浮かんできました。「タンスの中のずっと着ていない洋服も、押し入れの奥に眠っているかつての子どものおもちゃも・・・家中いらぬ物だらけ・・・自分なりに処理した廃棄物だらけだ」と。

その後も学習指導要領の読み込みを延々と続け・・・終了後には子どもの実態をつかみ、個の成長への願いをかけました。その後、数社の教科書を分析し、多くの先行実践を調べ、教材を発掘・選定し何とかつくれた単元の単元名が「いらぬものは？・・・わたしたちのくらしとごみ」です。

1次1時間目の学習活動は、子どもたちが家から持ってきた「自分のいらなくなったもの」(廃棄物)を見せ合い、感想を交流する活動。おもちゃや本、洋服、文具など様々な廃棄物を前に、子どもたちは異口同音に「捨てるなんてもったいない！」「〇〇ちゃんがいらぬなら頂戴！」「直せば使えるよ！」「誰かにあげたら？」・・・と、本気になって廃棄物の処理の仕方を考え始めたのです・・・

特別支援教育研修 ～ソーシャルスキルトレーニング研修会～ 8月25日

標記研修会のねらいは、「知的障がいや発達障がいのある児童・生徒への『ルールを守る』『他者に適切に対応する』等の技能を身に付けるソーシャルスキルトレーニングの教育課程への位置づけ、実際の指導方法を、特別支援学校の実践を基に学ぶこと」です。

講師は、県立月ヶ岡特別支援学校中学部主事の坂田先生、高等部主事の川沼先生。※主事：小中学校の教務主任に相当。

坂田先生は、ソーシャルスキルの理論、指導の実際（映像を交えて）、すぐに使える教育ソフトについて話されました。川沼先生は、特別支援教育の考え方のすごさ、普通中学校から高等部に入学したA子さんの事例（トラブル、進路等）を語られました。「注意しても素直に聞かず、反抗的な態度を取る。キレたときは暴力的になる。」このような親や教師を困らせる言動にどう対応するか！問題行動を改めさせようとするとう叱責の繰り返しとなり、さらに状況が悪化する。「困った行動には意味や背景がある。」と受け止め、問題行動をとってしまう理由を考えると具体的な指導が可能となる。お二人の話は特別支援学級はもとより通常学級でも使える内容が多く、参加者は大きくなすいていました。



【受講者の声】

- ・今回の研修は、実際にビデオを見たり、先生方の体験談をお聞きしたりして参考になりました。もしまた研修があったら、課題に即したロールプレイなどをしてみたいと思いました。
- ・「ソーシャルスキルトレーニング（SST）とはいつでも取り組めるもの」ということで、機会を見つけて取り組んでいきたいと思えます。トラブルはチャンスとして捉えていきたいです。
- ・具体的なSSTを行うための教材や進め方を学ぶことができよかった。高等部入学から就労に向けての取組の様子を、実例をもとに紹介していただくことができ参考になりました。
- ・ADHDやアスペルガーなどの知的障がいがない生徒への対応や具体的な事例を教えてください。
- ・社会の出口である高等部の具体的な話を聞くことができよかった。

第2回小中一貫教育推進マネジメント研修会！～9月9日～



標記の会に、推進協議会長、推進リーダー、コーディネーター等41名が参加し、以下の2点について発表・協議を行いました。

①平成26年度点検・評価実施計画について

小池指導主事が標記の実施マニュアル・依頼文・見直したアンケート項目について提案し、質疑応答に入りました。

「質問項目が多すぎる！」「アンケートの対象となる教職員の範囲をセンターの方で統一してほしい」等の意見が出されました。いただいたご意見を踏まえ、12月に最終案を提示する予定です。

②姫路サミットに向けての大島中学校区のプレ発表

第3分科会「特色ある学校づくりを基盤とした小中一貫教育」で発表する内容を、大島中渡邊三津先生、大島小齋藤哲生教頭先生が小規模校における人間関係づくりを中核とした取組について、映像を交えて発表しました。「QU検査やNRT結果を基に小中一貫教育の成果を述べていて素晴らしい」「島中絆タイムの年間計画を大きくすると見やすい」等多くの意見が寄せられました。

【受講者の声】 ・「小中連携の取組」は下田中区の取組にも通じ、大変参考になりました。

- ・小中一貫教育の核はやはり人間関係づくり、絆づくりにあるのだと再確認できました。
- ・大島中区の取組がよくわかった。「特色をどう出していくか」のヒントをたくさんいただいた。行事やイベント中心から日常活動にどうつなげていくかが課題だと感じた。

各学校区における小中一貫教育の紹介 ～その4～

大崎中学校区



8月22日、大崎中を会場に「第二回大崎小中職員合同研修会」が開催されました。以下の3点の中身の濃い研修でした。

【人権教育、同和教育研修】

講師は、元上越市立東本町小学校長で、現在白山会館運営委員長をされている寺田喜男様。これまでの実践・経験等を基に「同和問題・同和教育が必要なわけ」を具体的に述べられました。学校で実践するに当たっては①「言葉の重み」「部落差別をなくしたいという願い」を常に心がけること。②被差別者の立場に立って教育活動を行なうこと。③「差別しない、させない」「見過ごさない」「許さない」「負けない」人間を育てるという使命感をもって教育活動を行うこと、を力説されました。

【教科等部会】

「学習規律」「学校生活」の2点について、「崎っ子のやくそく」「大崎中：学習の5つのステップ」「崎っ子の生活」等現在使用しているものを説明し合い、小中共通して指導したい事項を確認しました。

【5部会】

2学期の活動計画について打合せを行いました。

※5部会⇒〔学級づくり〕〔縦割班・生徒会〕〔小中交流〕

〔学習活動〕〔道徳、人権教育、同和教育〕

【10月以降の主な取組】

- ・大崎地区体育リクリエーション大会 10/5
- ・中学校発表会、合唱コンクール 10/25
- ・小中音楽交流会 10/31
- ・小中交流ウィーク 11/25～28
- ・大崎中名物グリーンカーテン
- ・小中職員合同研修会 12/3、26
- ・小6児童保護者入学説明会 2/2
- ・大崎夢づくり、絆づくり集会 11/28



本成寺中学校区

本成寺中学校区の3校は「新潟県が推進する防災教育のモデル実践校」に選ばれています。9月10日、西鱈田小で「公開授業研修会」が開催されました。

【公開授業】 ※当日は学習参観日で多くの保護者が参観していました！

全学年で、「新潟県防災教育プログラム～洪水編～」に基づいた指導案を作成し、授業を公開しました。児童の発達段階に応じた教材提示、働きかけ、話し合い活動等が展開され、洪水への備え、洪水から街を守る対策、川との共存等について考えました。教師も児童も真剣に一所懸命学習している姿が心に残りました。

【講演会】 ※概略です。詳細は各校の参加者にお聞きください。

講師は“釜石の奇跡”で知られる片田敏孝群馬大学大学院教授。災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国的に展開している方です。釜石市や田辺市等での実践・実例を映像を交え「人が動くのは人の心を感じられるから」「人を変えるのは共感」「防災教育が災い教育になってはダメ」「川は豊かな恵みとともに災いももたらす。自分が住む三条に誇りをもつとともに、川と向き合い命を守る行動を！」と熱く語られました。(以下略)

【10月以降の主な取組】

- ・中学校合唱コンクール最優秀学級の小学校での発表会 10/28：月岡小 30：西鱈田小
- ・深めよう絆スクール集会 11/5
- ・3校授業研修会 ②11/13（本成寺中）③1/21（西鱈田小）
- ・生活チャレンジ週間 ②11/13～19 ③2/2～8
- ・乗り入れ授業 ①12/3 ②12/11
- ・第3回3校職員研修会 12/25
- ・入学説明会、授業体験、部活動体験 1/23



第8回 小中一貫教育推進委員会

標記の会が8月20日に栄庁舎で開催されました。初めに平成26年度の三条市PTA連合会の役員交代に伴い新たに推薦された白鳥賢会長、荻根沢優之副会長が保護者代表として委員に委嘱されました。

協議事項1 「三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価」実施方策及びアンケートの改善について（紙面の都合で概略のみ。）

①点検項目と評価項目との対応をはっきりさせるために、同じ種類の質問を続けて問うことにする。例えば「家庭学習の習慣化」のように小中一貫教育固有の取組でないものは、それだけを出して聞くことは避けた。

②児童生徒、教職員、保護者、それぞれ対象者間の質問項目はできるだけ共通になるように文言を修正した。

③4段階評価を明確にするために、選択肢の番号を変更する。

変更前「5はい 4まあまあ 3あまり 2いいえ 1わからない」

変更後「4はい 3まあまあ 2あまり 1いいえ 0わからない」

④平成25年度は集計作業の時間を考え、調査対象保護者を対象児童生徒の3分の1にして実施した。全数調査にしても集計作業が可能

であると判断し、平成26年度は、対象児童生徒の保護者全員を調査対象として実施したい。

⑤学校によっては、補足、具体事例の添付用紙を配布してもよいこととする。

⑥アンケートの実施時期は昨年度同様12月とするが、昨年度実施後にいただいた各校の要望を踏まえ、回収時期を2学期終業式前とする。〔参考：昨年度の回収時期は3学期始業式後〕

⑦地域住民、一般市民へのアンケート調査については今後検討していく。

上記7点について担当の小池指導主事が説明した後、活発な意見交換が行われました。いただいたご意見を生かした修正案を作成し、第2回マネジメント研修会（9月9日開催）で、推進リーダー、コーディネーターからご意見をもらう。これを踏まえ再修正案を作成し、第9回小中一貫教育推進委員会（11月下旬開催）で提案し、了解を得る。12月初めに各校にアンケート用紙を配布する予定。

協議事項2 「小中一貫教育フォーラムIN三条」の開催について

・日時 11月21日（金）14時～16時

・会場 燕三条地場産業振興センター リサーチコア 7階 マルチメディアホール

・次第 ①開会の挨拶・講師紹介 ②基調講演（調整中） ③三条市小中一貫教育PR用DVD

④文部科学省委託協力校（第一中区、大島中区、栄中区）実践発表 ⑤質疑応答

⑥講師への謝辞・閉会の挨拶 ※「実践のまとめ」（4P）は全中学校区が作成する。



教育の窓

～再び、昭和50年代の教育現場の様子を記します～

2校目は、冬は積雪が3mになる山の学校に勤め、当時の編制基準では最も多い20名の複式学級を担任しました。1つの教室に3年生8名と4年生12名が在籍する学級でした。社会や理科などはA・B年度方式で学習するのでほぼ単式学級と同じですが、国語と算数はそうは行きません。4年生が練習問題をしている間（間接指導）に、3年生に「課題提示⇒見通しをもたせる…」（直接指導）を。3年生が自力解決に入ったら（間接指導）、4年生に「課題提示⇒見通しをもたせる…」（直接指導）を。状況に応じ両学年に学習内容を指示し（間接指導）、個別指導に充てることも…。

初体験ばかりで戸惑う日々でしたが、学習規律の確立と学習意欲をもたせる授業展開の工夫等を必死にやりました。翌年は4・5年生に持ち上がり、引き続き20名の複式学級を受け持ちました。経験を積んでも複式学級の授業は大変でしたし難しかったです。この経験は、40人学級の中での個々の見取りや個に即した指導、グループ学習など、その後の学習指導に大いに役立ちました。（M）

【連絡とお願い】

10月は合唱コンクールや展覧会など保護者・地域に学校の取組を見ていただく機会が多いです。“言わずもがな”のことですが、準備・応対等“おもてなしの心”でお願いします。